

# 参天製薬株式会社

## 2005年3月期 決算説明会

### 2005年3月期 決算の概況

### 03-05中期経営計画の進捗状況

### 株主還元策および企業統治について

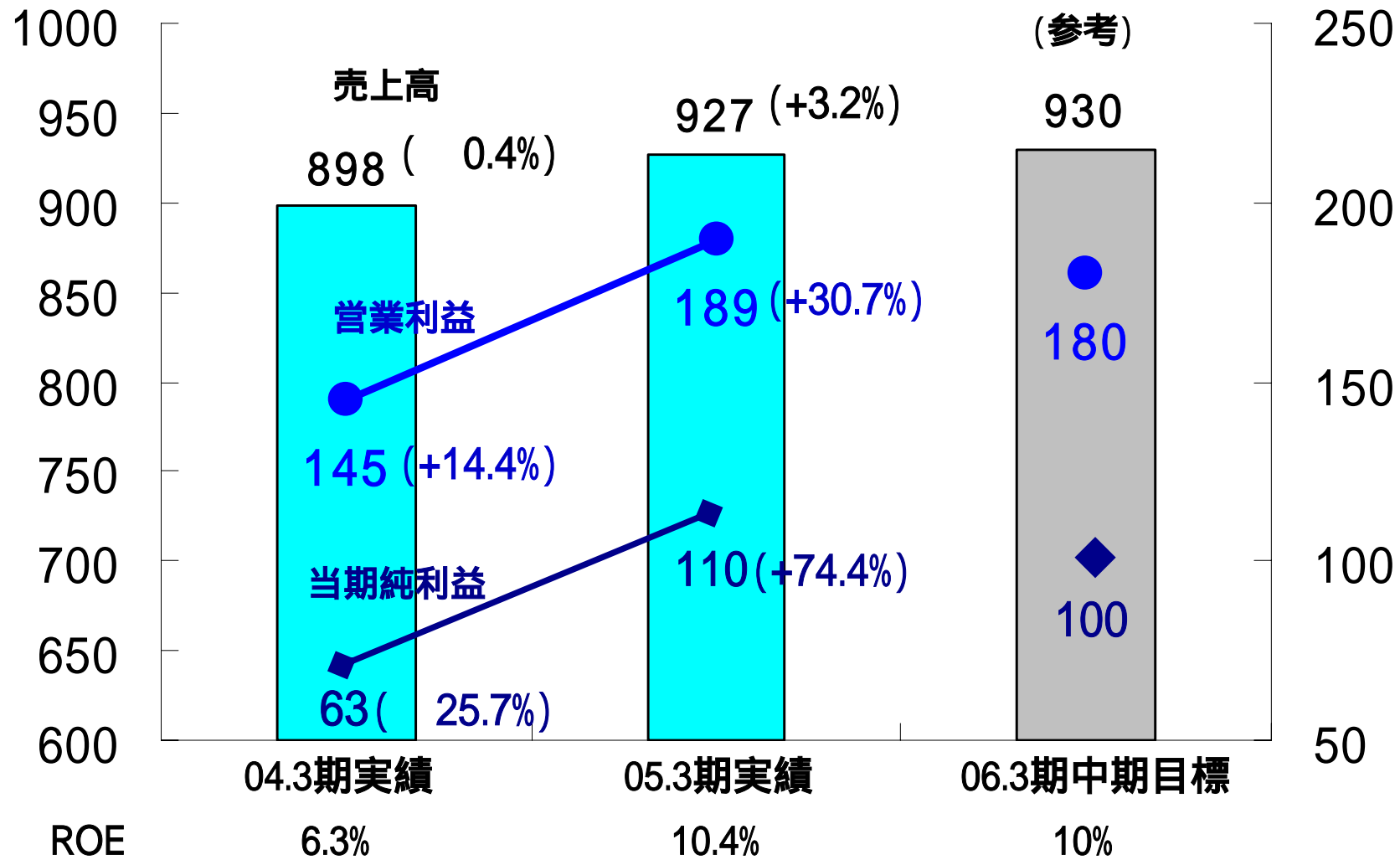
2005年5月10日

取締役社長 森田 隆和

(見通しに関する注意事項)この資料は参天製薬の戦略、計画、業績などに関する将来の見通しを含んでいます。この見通しは、現在入手可能な情報をもとにした当社経営者の判断に基づいています。従って実際の業績は、事業環境の変化、新薬の承認時期、為替レートの変動、行政動向など様々な要素により、これら見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おき下さい。

# 連結業績

単位: 億円, %は対前年伸び率



## 2005年3月期 営業の概況

### •収益力を回復する

国内：重点眼科薬(角結膜疾患用、緑内障用、アレルギー-)、抗リウマチ薬の維持拡大、緑内障薬の販売受託開始と効率化の推進

一般用目薬は流通在庫の適正化終了と販売費の効率化

医療機器は眼内レンズに資源を集中

海外：米国眼科薬事業の黒字化と欧州・アジアでの売り上げ拡大

### •新製品開発をスピードアップする

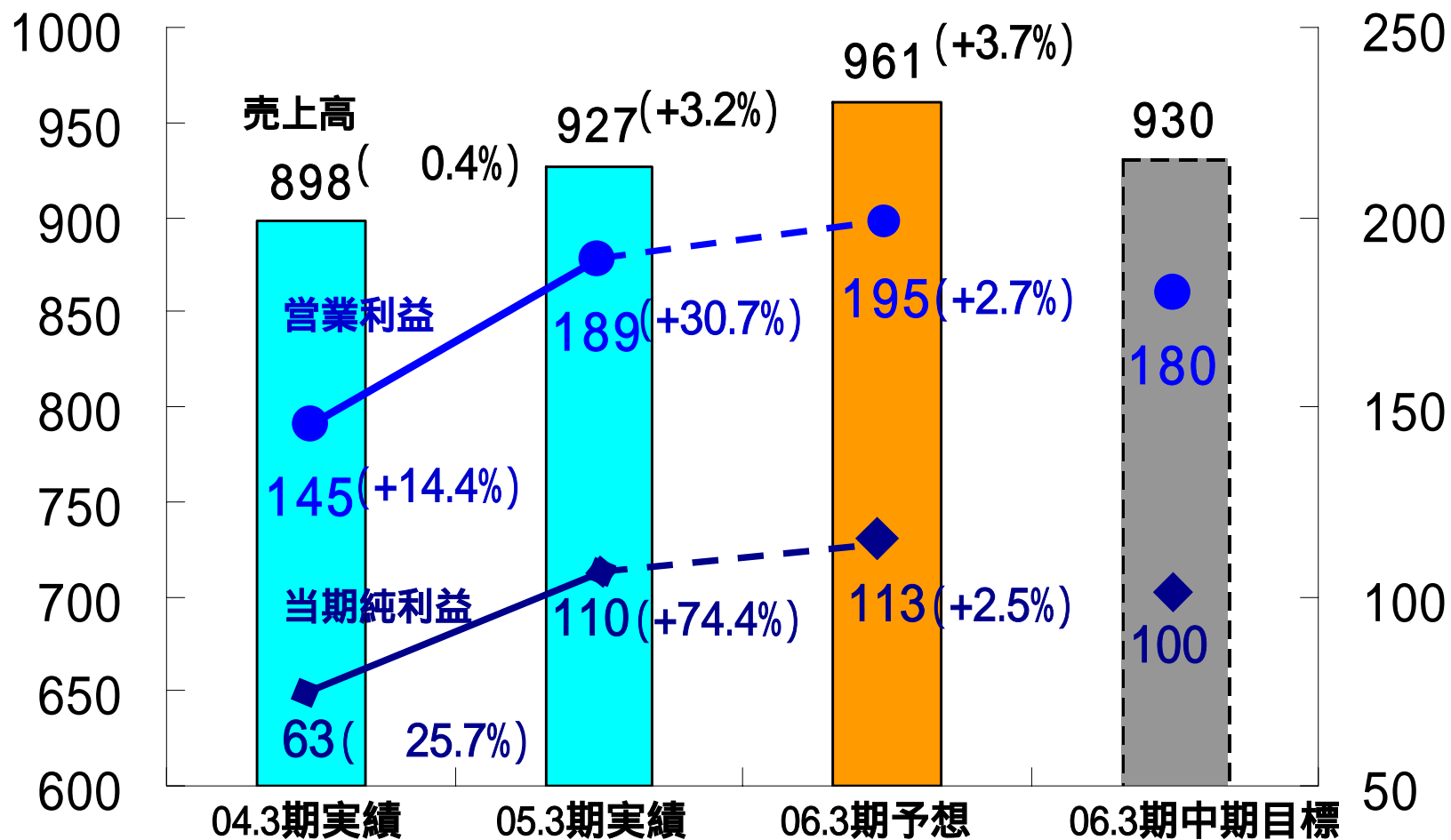
重点新薬候補(緑内障2品目、ドライアイ1品目、抗リウマチ1品目)は計画のとおりもしくは上回って進行中

### •組織力を強化する

企業統治体制を充実する

# 2006年3月期の見通し

単位: 億円, %は対前年伸び率



## 03-05 中期経営計画

### 基本方針

収益力の回復

研究開発力の強化

組織力の強化

### 重点課題

- 米国事業の早期収益化
- 費用削減の実施
- 国内収益基盤の維持・改善
- 新製品開発のスピードアップ
- 経営資源の重点配分による新薬候補化合物の充実
- コーポレート/ガバナンスの充実・強化
- 人材育成,組織マネジメント能力の向上

# 中期基本方針「収益力の回復」の進捗状況

	2004年3月期 実績	2005年3月期 実績	2006年3月期 計画
<b>米国事業の早期収益化</b>			
1.米国眼科薬	03/12販売提携	黒字化 (研開発控除前)	継続
<b>費用削減の実施</b>			
2.製造原価	新容器本格導入	新容器へ切替え完了	追加施策立案
3.営業オフィス改革 購買改革	主要オフィス移行 電子購買システム導入	全オフィス移行 対象品目の電子購買化 が進行中	全面的寄与 全面的寄与
業務サービス改革		改革策立案	改革策実施
<b>国内収益基盤の維持・改善</b>			
4.眼科事業リニューアル	MR活動支援システム 導入	トライアル開始と基盤改革	全面展開
5.薬粧事業		コスト構造分析と 改革策立案	コスト構造 改革策実施

## 新容器「ディンプルボトル」に切り替えを完了した

- 識別しやすい (大きなキャップと分かりやすい色分け、製品名を大きく表示)
- 点眼しやすい (指にフィットするくぼみ、容器のやわらかさ、残存量が確認できる側面のスリット)



従来の容器



ディンプルボトル

## 中期基本方針「研究開発力の強化・組織力強化」の進捗状況

	<u>2004年3月期 実績</u>	<u>2005年3月期 実績</u>	<u>2006年3月期 計画</u>
<b>研究開発力強化</b>			
6.新製品開発のスピードアップ	臨床開発要員増強とプロセス改革 (緑内、角膜、抗リウマチ)	非臨床研究のスピードアップ (新方針策定済)	(優先プロジェクトは) 臨床開発5年非臨床開発1.5年を達成
7.新薬開発候補の充実	有望なテーマに傾斜配分 眼科薬創薬機能を充実	次期臨床開発候補品の充実 (緑内、網膜、ドライアイ、炎症)	約1年後に2品目を臨床に
<b>組織力の強化</b>			
8.企業統治機能の充実・強化	社外取締役の選任 取締役の任期を1年に短縮	継続	取締役の増強 (社外2名、社内1名) 委員会継続、新設
9.人材育成・組織マネジメント力の向上	リーダー開発プログラム継続	継続	継続



## 主な新製品候補 (2005年5月現在、<>は2004年5月時点)

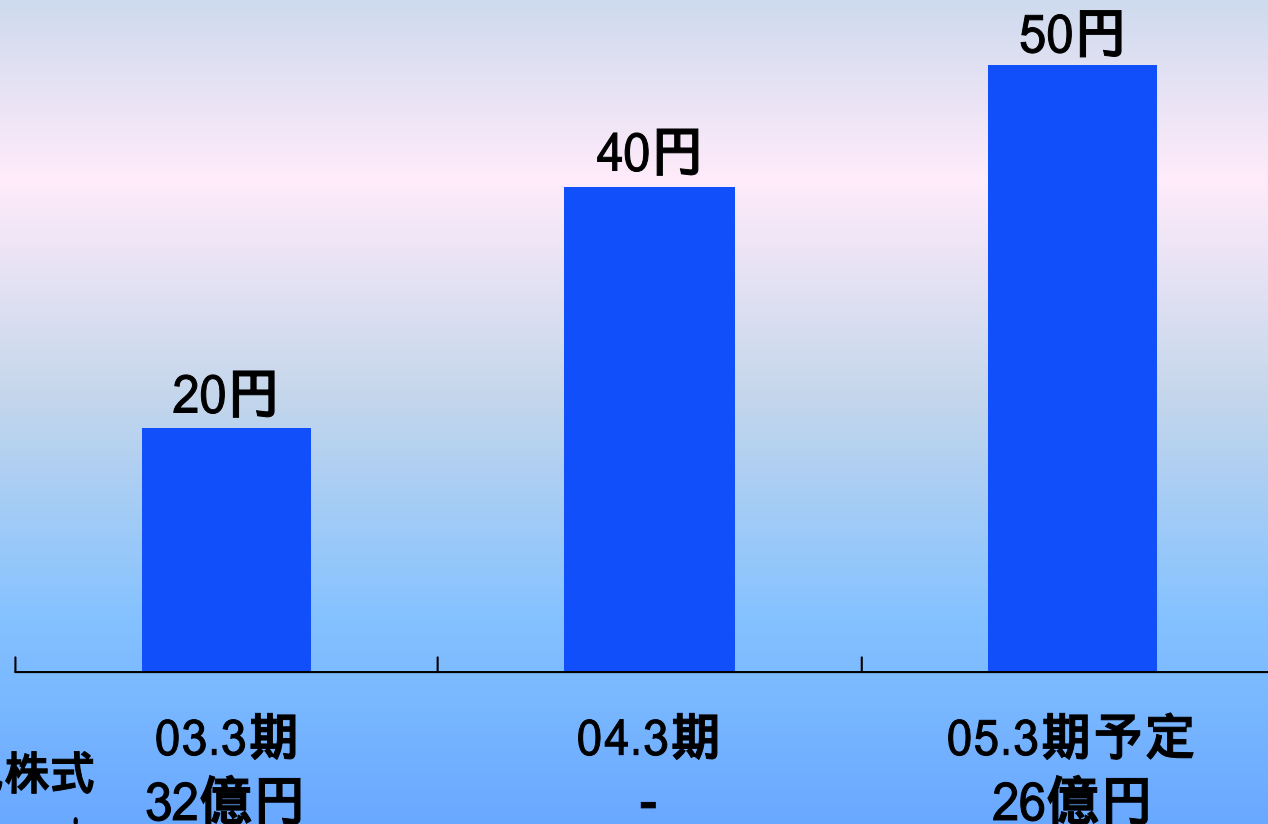
1) シクロスポリン DE-076(導入)	春季カタル	免疫抑制	申請済	申請済
2) 眼内レンズ MD-14(自社)		アクリル眼内レンズ	日本:04年8月申請済 米:臨床試験	申請済
3) タフルプロスト DE-085(自社)	緑内障 高眼圧症	プロスタノイドFP受容体作 動薬 ぶどう膜強膜流出促進	日本:P3 欧米:P3	申請予定: 06FY3Q
4) オルメサルタン DE-092(導入)	緑内障 高眼圧症	アンジオテンシン IIAT1受 容体拮抗薬 ぶどう膜強膜流出促進	日本:P2b <P2a> 欧米:P2容量設定試験	08FY1Q
5) ジカフォソル テトラナトリウム DE-089(導入)	ドライアイ	P2Y <sub>2</sub> 受容体作動薬 涙液分泌の促進	日本:P2b <P2a>	08FY3Q
6) 一般名未定 DE-096(自社)	関節リウマチ	TNF 産生阻害作用	日本:P2a <P1>	-

## 2006年3月期の基本方針

- 03-05中期計画の最終年度となる2006年3月期は、基本方針である収益力回復・研究開発力の強化・組織力の強化を継続し、スライド6,8で説明したそれぞれの重点政策を実施する。
- 次の中期的な課題は、効率化を進めつつ、現在開発中の新製品をテコに企業成長を実現するための方策を決め実現すること。

# 株主還元策

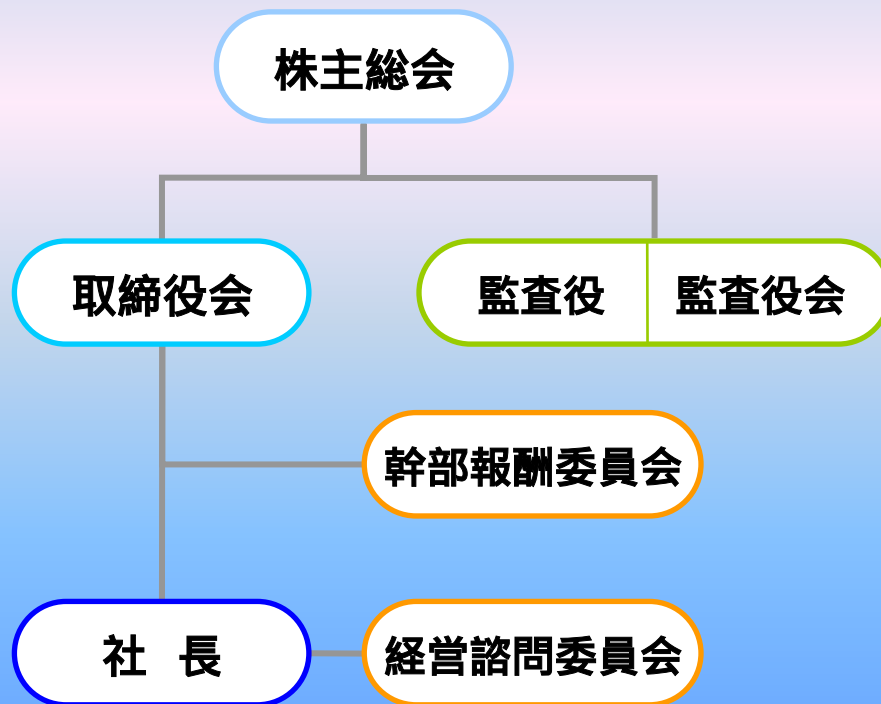
- 基本的に、業績に応じた利益還元を図る
- 将来の資金需要、財務状況の見通しを考慮して、配当水準の維持、向上に努める
- 自己株式の取得、消却についても機動的な手段として適宜検討する



# 企業統治体制の充実

- ・監査役制度は継続
- ・取締役： 社内5名(1名増員)、社外3名(2名増員)、計8名(3名増員)に
- ・委員会： 戦略審議委員会、指名委員会を設置し、報酬委員会を継続

## 現在の組織



## 2005年7月からの組織

